西東京市市民協働推進センター
平成２５年(２０１３)年度第２回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２５年５月２１日(火)　午後７時~８時３０分
■開催場所：イングビル３階　第１、２会議室
■出席委員：有馬委員、岸委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、坂口委員、田中(紀)委員、田中(友)委員、田辺委員、徳永委員、豊永委員、中村委員、藤江委員
<以上１３名、五十音順>
■事務局：内田センター長、佐藤、丸木地域福祉課長、小平地域福祉推進係長、塚澤主事

○自己紹介
第１回運営委員会を欠席した新任委員３名の自己紹介があった。

１．報　告　事　項

1. 業務報告について
事務局より４月の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、相談対応状況について説明があった。

２．５月以降の事業について
事務局より、５月以降の実施事業について説明があった。

委員長：ここで報告事項についてまとめて質問はあるか。
委　員：市民活動相談記録でゆめこらぼ通信がモノトーンなので目立たないという相談が２回あるが、これは同一人物か。
事務局：別人である。カラー印刷は状況的に難しいため、今後はチラシや広報紙はそれぞれ色を決め、カラー紙に印刷し発行していくこととした。
委　員：市民活動団体の登録更新は４月末の締切なのにも関わらず現在５３団体しか終了していない。更新手続きのプッシュはしていないのか。
事務局：締切後の一週間目に再度連絡を取っている。
委　員：最終的な締切はいつなのか。更新手続きをしていない団体に対しては市民活動団体状況調査から始めてはどうか。
事務局：去年は７月までかかったと聞いている。ご意見を参考にしながら、なるべく早く出来るように努力する。
委　員：更新手続きをまだ行っていない団体に対してヒアリングも同時に行えば早いのではないか。
事務局：了解。

２．審　議　事　項

１．前回の会議録について
事務局：協議事項について４ページ９行目事業報告のホームページを公開するかどうかは確認をすることになっている。確認が取れたので、昨年度の事業報告を公開している。ご指摘の修正点も付け加えているが、平成２４年度事業報告に関して、ホームページ掲載は社会福祉協議会の組織での承認がまだなされていないので一旦ホームページから取り下げることとする。５月２９日の理事会、評議員会で議決をなされてからホームページに正式アップする。申し訳ない。
委員長：手続き上の問題だけなので、一旦ホームページ上から取り下げ、今月末にはホームページ上に再度掲載することとする。

３．協　議　事　項

１．運営委員会委員について

事務局：委員１名、５月いっぱいで仕事上の理由で委員辞退の申し出があった。

委員長：１名減り、計１４名となったので名簿の確認をしてほしい。
商工会議所の方は今まで３代にわたりご協力いただいたが、またいつかご協力をお願いしたい。

委　員：「ＮＫＳＪシステム株式会社ちきゅうくらぶ」という名称はわかりづらいので、今後は「損保ジャパンちきゅうくらぶ」に変更していただきたい。

委員長：そのように訂正をする。変更後の運営委員会委員を確定したこととする。

２．運営委員会の年間協議事項について

今年度４月から来年３月までの年間協議事項案のスケジュール表を作成した。

事務局：執行予定事業の中の重点取組事業は事前に運営委員会で企画案の議論をしていただき、それをもとに事業を進めることとしたい。
８月、９月の運営委員会後に運営委員のそれぞれのお立場から地域課題を出して話し合うことを提案したい。議論した課題を今後のまちづくり円卓会議などにつなげていきたい。

委　員：８月の運営委員会は今まで開催しなかったように思うが予算的には大丈夫か。

事務局：昨年は台風のため６月の運営委員会は開催されなかったが毎年１２回を予定している。予算面の問題はなく、８月は暑すぎるということで開催を見合わせていた経緯もあるが、事務局としてはこの機会に地域課題について協議することを提案したい。

委員長：重点取組事業の進め方と８月、９月の運営委員会終了後の地域課題の協議に関する提案に異論がないようなのでこのまま進めることとする。
先般、委員長、副委員長就任にあたり、副委員長、センター長、地域福祉課長と共に協働コミュニティ課の課長、担当者と会合をもった。主にＮＰＯ法人や市民活動団体の支援政策や協働推進のあり方について話した。協働の担当課がより強い権限を持つためにはＮＰＯや市民活動団体との強いネットワークを作っていき、協働推進センターと連携をとって行くべきではないかと進言した。そのためにも年に１、２回は運営委員会と協働コミュニティ課との懇談会をすることを提案した。少なくとも年に１回程度は懇談会に協働コミュニティ課にご参加いただき、意見交換することを提案していきたいと思うが、いかがか。

委　員：今までも協働コミュニティ課に協働の懇談会をする提案をしてきたがなかなか実現できなかったので、今年は特にこの提案実現にむけて働きかけたいということを意味しているのか。

委員長：意味している。受託団体として社会福祉協議会がお願いする意味と、市民側としての運営委員会がお願いするのとは意味合いが違う可能性がある。今年は運営委員会から働きかけることを提案したい。また、テーマなどを提案していき、この場に来ていただくことを提案したい。

委　員：夜に開かれる場合、時間的に行政がこのような懇談会に参加していただくことは難しいということはあるか。

事務局：今まで開催時間が理由で断られたことはない。

委員長：組織運営や事業運営は受託先である社協とのやり取りになるが、市民と行政との協働というテーマに基づいて懇談するということは運営委員会とのやりとりになるので問題はないと考える。

委　員：行政との懇談会という形式ではなく、より具体的なテーマを決め議論するという意味合いの会合に来ていただけるようにするのはどうか。

委員長：たとえば、この８月もしくは９月に参加していただき、行政にもテーマがあれば提議していただき共に議論しましょうということか。協働コミュニティ課に対して、市民協働推進センターを受託しているのは社会福祉協議会であるが、オーナーはあくまでも行政側なのだから、最終責任を取る意味でも協働の懇談会に出席される必要があるということをお伝えさせてもらった。この８月か９月に地域課題を出す場を設定し、その場に参加していただき共に議論していただくのはいかがか。

委　員：市民にとっては協働コミュニティ課の認知度が低いと感じることがある。積極的に市民と接触を図るという意味でもこのような場を利用してもらうことはよいのではないか。

委　員：協働コミュニティ課と何かを決めるというのではなく、共に話し合い、考えるという姿勢で参加を働きかける方向が良いと考える。

委員長：ほかに異論もないようなので、時期的なことは事務局で考えていただきたい。場合によっては、協働コミュニティ課に対して運営委員会または運営委員長名で提案をしても構わないので、積極的に参加を働きかける方向で進めてほしい。また、今年度の年間協議事項と執行予定事業は資料の表に準じて進めてほしい。

重点取組事業「ＮＰＯ・市民活動団体～交流の集い～」企画案について説明があった。

委　員：呼びかけの文面に関してだが、ネットワークづくりが目的なのだから過去の交流会で生まれた交流実績をもっとアピールした方が目的に合致すると思う。

登録団体に協力してもらう件については協力団体をゆめこらぼが決めるのではなく、協力したい団体を募集するというのはどうか。

参加者同士のつながりをつくる目的でテーブルのグループ分けとあるが、グループに分ける方法を取るならば、グループごとに何かワークショップ形式で作業をすることを提案する。

委　員：交流が目的であるならば７０名は多すぎる。１団体ごとの参加人数を制限して募集してほしい。また、団体以外の個人も参加できるように検討してほしい。

委　員：西東京市一店逸品商品の紹介は良い企画だと思う。

委員長：市民協働推進センターに来れば、新たな協働のチャンスが生まれるというような呼びかけ、事例としての「子どもネットワーク」のような市民間協働を訴える呼びかけ、新たな協働のチャンスとしてニーズマッチングできる仕掛けを作ることも効果的。具体的には、初めのセッションはテーブルごとにテーマや活動分野を決めて話し合ってもらい、その後は自由に話し合う。

また、参加団体の活動情報などが把握できるようにカードや名簿を表示するとか、事務局などがマッチングメーカーとなり団体をつなげる、つながるための工夫に重点を置いてほしい。

過去に出席したことのある方、なにか感想はあるか。

委　員：一人３０秒の自己紹介タイムは発表する方も聞く方も負担が大きい。興味のある団体と交流ができることの方が望ましい。

委　員：自己紹介で団体の情報を得るのは不可能に近いので、事前に参加団体の情報が得られ交流したい団体を把握できるなどの事前の工夫をしてほしい。

委　員：この会に参加したことによる成功事例を掲げることで、交流会に対するイメージや期待感を持たせる効果があると思う。

委員長：質問だが、交流会終了後に２次会はあるのか。

事務局：考えていない。

委員長：オフィシャルではなく、こういう会合があってもいいのではないか。

他に何かあるか。次回の運営委員会の時点では、すでにこの「交流の集い」の広報は開始してなくてはならないので、この件に関しての意見は今日限りとなる。あとは事務局

におまかせすることになるのだが、アイデアがある方は事務局に直接相談していただいて構わない。では、みなさんの意見を取り入れて企画してほしい。

「まちづくり円卓会議～障がい者の居場所づくり」企画案について説明があった。

委員長：「まちづくり円卓会議」のテーマは、回を追うごとに具体的になってきているのはすごく良い。ご意見はあるか。

委　員：準備会合を開いて準備ステップを踏むことは非常に良いと思う。ただ、準備段階では課題解決に深く踏み込むと本番との違いがなくなるため、ルール作りや枠組み作りに留まるべきと考える。

委　員：市民協働推進センターのあり方を考えた場合、今回のテーマ「障がい者の居場所づくり」でよいのか。

事務局：１回目、２回目を経て、今、地域の中で「障がい者の居場所」が大きな問題であると考えた。円卓会議の参加メンバーでどのようにしていくかを決め、そのメンバーが実行していくという流れで進行している。ゆめこらぼとしてはこの流れで続けていきたい。

委　員：準備会合としてのスタッフ情報交換会の出席者はどのようなメンバーなのか。

事務局：今のところ、公的施設などに関わっているスタッフを中心にしているが、公的なということに限ることはないと思っている。現場の課題を把握している方と情報交換をしていくのがもともとの趣旨である。

委　員：スタッフ情報交換会のメンバーはまちづくり円卓会議のメンバーと同じか。

事務局：このリストの中から絞ったメンバーになる。

委員長：もともと仲介支援や中間支援をやっている機関や公民館などの横のつながりを作るスタッフ情報交換会という事業があり、その会をこのスタッフ情報交換会に充てている。ゆめこらぼのスタッフの情報交換会ではなく、外部のスタッフと横の連携をはかる情報交換会を充てているという意味である。

委　員：第１回は公開形式で第２回は非公開形式で開催したが、今回はどうなるのか。

事務局：今後３回の開催を企画しており、まだ明確には決めていないが、当面は非公開でやっていきたい。今後、ファシリテーターのスキルも必要となると思うので、何らかの成果が見えて市民の方に見ていただけるようになったらオープンにしたい。おそらく今年度の３回目から実現できると思う。

昨年度はそれ以前に円卓会議をやっていなかったため、円卓会議そのもの自体を知っていただくためにオープン形式をとったが、今後はこれまでの経過に基づいた成果を追及することになるので、成果がない状況での公開は考えていない。

委員長：公開形式はプロセスをきちんと一般市民に見せていくという効果もあるのではないか。関心のあるオブザーバーの参加を認めても良いのではないか。

事務局：市報に載せるので、議論に参加することは難しいが一般市民の参加もあると思う。

委　員：今回「障がい者の居場所づくり」をテーマにしていただいたことをありがたいと思っている。是非とも参加したい。まちづくり円卓会議のなかでより良い方向に向かうことは心強い。

委員長：今現在、西東京市障害者基本計画を作成中と思うが、かつて作成に関わった経験をお持ちの方からのご意見を伺いたい。

委　員：円卓会議をより多くの人に広め、関心を持っていただくことが大事と考える。積極的に会議傍聴の声掛けを行いながら、円卓会議に巻き込んでいく。あるいは、障がい者の関係者等に声掛けをして輪を広げていき、成果につなげることが本来の円卓会議の目的と考える。

委員長：まちづくり円卓会議というのは、テーマを持ち上げて皆で語る場を設定し、その方々が自分たちでアクションに繋がるようにするという役割がある。障害福祉課をはじめとし

て、いろいろな方に入っていただくことも良いと思う。他にご意見はあるか。

委　員：団体以外の当事者の参加も難しくなければ検討してほしい。

委員長：たくさんのご意見が出た。企画案が出されると多くの意見が出てブラッシュアップができるので良かったと思う。

４．そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

日時：６月１８日(火)１９時～２１時

会場：イングビル３階　第１会議室